モモの病害虫防除について

和歌山県果樹試験場かき・もも研究所　主任研究員　大谷洋子

はじめに

和歌山県のモモ栽培において問題となっている主な病害虫はせん孔細菌病、果実赤点病、灰星病、カイガラムシ類等です。また、近年は侵入害虫クビアカツヤカミキリの被害が拡大しています。

ここでは、これらの病害虫の発生生態と防除対策について紹介します。

せん孔細菌病

発生生態

病原菌は細菌で、主に葉、果実、枝に発生します。葉でははじめ極小の白斑がみられ、その後、淡黄色から褐色のやや角張った斑点に拡大します。このとき、病斑からの病原細菌の放出量が最も多くなります。やがて病斑部は脱落し葉に穴があきます（写真１）。

写真１　モモせん孔細菌病発病葉

発病が著しい場合は葉が黄化し落葉します。果実では、褐色斑点を形成し、果実肥大とともに果実表面に亀裂を生じ、著しく外観を損ね商品価値を落とします（写真２）。

写真２　モモせん孔細菌病発病果実

病原菌は、前年の秋雨期に枝の皮層部に侵入、感染して潜伏したまま越冬します。発芽期頃から、病原菌が増殖し春型枝病斑が形成され、葉や果実への重要な一次伝染源となります。盛夏期に病勢が一時停滞しますが、秋になって気温が低下すると、台風や強風雨で出来た落葉痕や傷から感染します。

防除対策

風速 10m/秒以上の風雨により発病が助長されるため、防風ネットや防風樹などにより防風対策を行うことが重要です。また、薬剤防除として、秋期２回以上及び春期１回の無機銅剤散布と、４月から袋掛け前まで約 10 日間隔での抗生物質剤等の散布を行います。

果実赤点病

発生生態

病原菌は糸状菌で、収穫間近に果実表面にシロカイガラムシ類の果実被害に似た赤色の斑点症状が発生します（写真３）。

写真３　モモ果実赤点病発病果実

果実への感染は、樹上に形成された胞子が風雨で飛散することによって行われます。通風性の悪い園で発生が多く、降雨が多い年には発生が多くなります。

防除対策

袋掛けが始まる５月下旬頃までにジマンダイセン水和剤、ベルクート水和剤、ダコレート水和剤等を散布します。

灰星病

発生生態

病原菌は糸状菌で、果実では初め小さな褐色斑点を生じ、やがて拡大して灰褐色粉状の胞子で覆われます（写真４）。

写真４　モモ灰星病発病果実

梅雨が長く降雨の多い年に発生が多くなります。袋掛け前に胞子が果実に付いたり、袋掛け後に胞子が雨水とともに袋内へ侵入すると発生します。

防除対策

花腐れや前年の被害果実の除去および開花期前後と収穫前に適用農薬の散布を行います。

カイガラムシ類

発生生態

本県のモモで問題となるカイガラムシ類は、ウメシロカイガラムシ、クワシロカイガラムシ、ナシマルカイガラムシです。これらのカイガラムシ類は、幹や枝に寄生して樹液を吸汁し、枝の枯死、樹勢の衰弱を引き起こします（写真５）。

写真５　クワシロカイガラムシ寄生枝

１齢幼虫は枝上を歩行、あるいは風に乗って移動分散し、２齢以降は枝表面に定着し、体表面がロウ物質で覆われ、移動しなくなります。和歌山県では年間３世代を経ることが知られています。

防除対策

防除は１齢幼虫発生時期を狙って行います。紀の川市における第１世代１齢幼虫の発生時期は、

年によってバラツキがあるものの、おおよそ、ウメシロカイガラムシで４月下旬～５月上旬、クワシロカイガラムシで５月上旬～中旬、ナシマルカイガラムシで５月下旬～６月下旬です。防除薬剤は、アプロード水和剤、トランスフォームフロアブル、モベントフロアブル、コルト顆粒水和剤等を使用します。

また、休眠期のマシン油乳剤とアプロード水和剤の混用散布は密度抑制に有効です。

クビアカツヤカミキリ

発生生態

クビアカツヤカミキリ（写真６）は、近年日本への侵入が確認された害虫で、和歌山県では 2019 年にかつらぎ町のモモで被害が初めて確認されました。その後、紀北地域で急速に分布を拡大させています。幼虫はモモ、スモモ、ウメ、サクラ等のバラ科サクラ属の樹木を加害しますが、特にモモやスモモで被害が激しい傾向があります。幼虫に食入されると、株元に大量のフラス（木くずと糞が混ざったもの）が排出されます。甚大な被害を受けた樹は、樹皮の剥離、主枝の枯れ込み、樹勢の衰弱により、早晩枯死する可能性が高いです。

写真６　クビアカツヤカミキリ成虫

防除対策

早期発見に努め、フラスを確認したら、幼虫を掘り取るか針金で刺殺したのち、ロビンフッド等のスプレー式殺虫剤を食入孔に噴射します。被害樹には成虫の分散防止のため目合い４㎜ 以下のネットを巻き付けます。被害が大きい樹は、成虫が発生する恐れのない９月以降、翌年の４月下旬までに樹を伐採・抜根し、粉砕あるいは焼却処分します。

成虫の発生盛期（６月中下旬～８月上旬）に 10～14 日間隔でオリオン水和剤 40、スミチオン乳剤、アクタラ顆粒水溶剤、モスピラン顆粒水溶剤、ダントツ水溶剤、ハチハチフロアブル等を散布します。収穫期と重なるので、各農薬の使用時期（収穫前日数）に注意してください。